

国際看護研究会 NEWS LETTER

No.68



2013. 1. 15 発行

本号の内容は以下のとおりです。

- | | | |
|---------------------------|-------|------|
| I. 第 71 回運営委員会報告 | _____ | p. 1 |
| II. 第 67 回国際看護研究会講演会報告 | _____ | p. 1 |
| III. スタディツアー開催について | _____ | p. 4 |
| IV. 第 68 回国際看護研究会講演会のお知らせ | _____ | p. 5 |
| V. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より） | _____ | p. 5 |

※本文に記載されている振込先やメールアドレスについては、現在は使われておりませんのでご注意ください。

I. 運営委員会報告

国際看護研究会第 71 回運営委員会は 12 月 15 日（土）に JICA 研究所で開催された。第 15 回学術集会について初めての JICA 横浜での開催だったが JICA 側の協力で滞りなく終了したことが報告された。第 16 回の準備は今後順次進めて行くことが説明された。今後の講演会開催予定についての報告、協議を行った（3 月 16 日、6 月 15 日開催予定）。スタディツアーの申し込みが少なく、開催の有無について協議したが、予算確保済で最低催行人員も決めていないことから、予定通り開催することにした。今年度は運営委員改選の年度であり、2013 年 2 月上旬に行う予定で準備を進めることになった。選挙の機会を利用して会員を対象にニーズを把握するためのアンケート調査を行うことにした。

II. 第 67 回国際看護研究会講演会報告

第 67 回の講演会は 2012 年 12 月 15 日（土）に国際協力機構研究所（JICA 市ヶ谷研究所）601-602 号室にて開催され JICA 専門家 山田智恵里氏より「南アフリカ HIV/AIDS 在宅コミュニティにかかるモニタリング評価強化の活動中間報告」のテーマでご講演いただきました。

講演抄録

南アフリカ HIV/AIDS 在宅コミュニティケアにかかるモニタリング評価強化の活動中間報告

JICA 派遣専門家 山田智恵里

<はじめに> 世界の HIV 感染者および AIDS 患者の数は 3,300 万人、サハラ以南アフリカで全世界の 60-70%を占めるといわれている (2009 年)。南アフリカ (以下南ア) は 18-25 歳人口の 17.8%が感染しており、国内で約 560 万人と推定されている感染者への対策として、2000 年より在宅コミュニティケア (Home and Community Based Care: HCBC) プログラムを開始している。HCBC では、HIV 感染・AIDS 発症に起因する様々な疾病による患者とその家族を総合的に支援すること目的としている。プログラムでは医療面での支援 (AIDS 発症予防薬の提供など) を保健省が担当する一方、社会開発省 (Department of Social Development; 以下 DSD) が精神・社会的ケアやエイズ孤児などの福祉的側面の実施支援を担当している。

<HCBC 団体> HCBC 団体はすべて NPO であり、対象者にサービス (身の回りの世話、心理社会的支援、治療継続支援、助成金への申請補助など) を提供するのボランティアであり Community Care Giver (CCG) と呼ばれる。HCBC 団体は設立後保健省または DSD に登録する。DSD での登録数は 5,000 以上といわれているが、その中で一定の基準を満たす団体が州を通じて助成金を受けている (1,800 程)。助成金を受けている団体は毎月既定の記録様式を郡へ提出することが義務付けられている。

<技術協力> JICA は DSD をカウンターパート (CP) 機関として 2006 年 3 月から 4 年間技術協力プロジェクトを実施し、HCBC 活動にかかる包括的・統一モニタリング評価システムを開発し (上記の月間記録様式)、9 州中 4 州に導入し協力活動を終了した。プロジェクト終了後は DSD がモニタリング評価システムを他 4 州へも段階的に導入し、南ア全体でのシステム統合を進めている。しかし、構築されたモニタリング評価システムで収集されるデータを有効に分析・報告し、HCBC 活動の向上へ反映するための知識経験不足があり、その技術支援要請があった。具体的にはパイロット州で現状を把握し、データ分析とその活用ができるように研修を計画し、結果をフォローアップしつつ、成果を確認するという業務内容である。

2012 年 1 月より約 2 年間の予定でモニタリング評価支援のための派遣が開始され、DSD の HCBC モニタリング評価担当チーム 3 名と協働している。派遣後の DSD 内部の情報収集による限局的な把握ではあったが、データ分析には少なくとも妥当なデータが収集されていなければならないが、これが達成されていないことが推定された。よって、パイロット州としてノース・ウエスト州 (全 4 郡) とノーザン・ケープ州 (全 5 郡) の受け入れ承認を得て、実態調査のベースライン調査、その結果をもとに介入プログラムの実施、エンドライン調査、最終的に結果を全国へ紹介するという全体計画を立案した。

<ベースライン調査> 上記のパイロット州での活動、ベースライン調査、介入プログラ

ム＝研修、エンドライン調査はすべて外注という形態であった。4月に業務指示書（TOR）が提示され、提出されたプロポーザルの中から業者を選定し、契約を行った。その後業務内容の詳細な打合せに入り、5月に2州9郡でベースライン調査を実施した。結果は、毎月の期日までに漏れや間違いのない複数のデータ票を提出している率はノース・ウエスト州の郡で50-100%（100%の郡は対象団体が6）、ノーザン・ケープ州の郡で0-50%であった。集計間違いや記入漏れも多く認められた。

＜研修＞ 7月に研修のTORを提示し、8月に外注先が決定した。2州の助成金を受けている全HCBC団体のマネージャーと郡職員を対象として、計4回の研修を9月（質の良いデータとは、データの質管理・指導）、11月（サポータティブ・スーパービジョン）、2月（データ分析と報告作成）、5月（データ分析結果に基づく計画立案）で開始した。9郡を2グループに分け、Aグループは9月開始、Bグループは11月開始（2013年8月終了）とした。参加マネージャーは研修後、研修内容を自団体のCCGやそのスーパーバイザーに指導し、郡職員はその実施を支援する。参加団体数は2州で99である。

＜研修の進捗状況＞ Aグループの9月、10月の月間記録提出状況はベースラインより改善していなかった。これは9月の研修後データの質管理方法の団体内研修実施に時間がかかり、成果が出るまでに至らなかったためと考えられ、継続して提出状況を観察してゆくこととした。研修2回目から参加者は実際の提出記録を持参し、互いに質管理の評価をしようことで、理解が深まっていること、研修自体に慣れ自発性が高まったことから、今後の進展が期待されている。

＜研修後の展開計画＞ 2013年9月にエンドライン調査を行い、成果をまとめる予定である。研修のモジュールの作成も一から行っており、研修実施中に改善を加えて毎回研修が終了した時点で教材の最終化も行われている。これらモジュールと教材は今後他州での研修で活用が期待されている。11月には介入の結果と成果品を全国AIDS/HIVプログラム・コーディネーター会議にて発表する予定である。また、DSDレベルでのデータ分析は時期尚早であるが、DSDにおける全国データの分析方法は確立できるようCPに技術移転中で



小グループでの検討会



ロールプレイ：いかにCCGを指導するか

Ⅲ. スタディツアー開催について

2013年3月にタイへのスタディツアーを開催予定です。まだ人員に余裕がありますので、ご関心のある方は森までご連絡ください。myoshie@gunma-u.ac.jp 最大9人まで募集し、先着順で締切ります。概略は以下の通りです。

2013年3月24日(日) 10:45 成田発→15:45 バンコク着

18:25 バンコク発→19:25 コンケン着

3月25日(月)～29日(金)

ハンセン病セルフケアクリニック見学(22年間活動する日本人阿部春代看護師活動場所)

ハンセン病コロニー内の訪問看護同行、コミュニティ見学

県立病院見学

タイの医療についての講義を聴講

*コンケンの見学については、次のwebをご参照ください。

<http://jnapcdc.com/archives/5383>

バンコク病院見学(Medical tourismで有名な病院)

現地NGO訪問

その他学校見学、世界遺産見学など

3月29日(金)

22:35 バンコク発→

3月30日(土)

6:15 成田着

経費概算:

航空券+現地交通費 ¥100,000～120,000

宿泊費(5泊) ¥30,000

食費 ¥10,000

合計¥140,000～160,000

留意点: 治安状況その他諸事情により、計画の実施および内容変更の可能性あり。

学生の参加希望者は保護者の同意書を必要とする。

参加者は海外旅行保険をかけること。

JSIN Newsletter

IV. 第 68 回国際看護研究会講演会のお知らせ

日 時：平成 25 年 3 月 16 日（土）13：00～15：00（12：45～受付開始）

会 場：「国際協力機構研究所（JICA 市ヶ谷研究所）601-602 号室（東京都新宿区市谷本村町 10-5）

テーマ：「開発の遅れているガーナ北部での巡回型青年海外協力隊活動から体験したこと」

講 師：鈴木聡子氏（目白バースハウス）

参加費：本会会員無料・非会員 500 円

*会場「地球ひろば」は、広尾から市ヶ谷に移転しております。事前申し込みは不要ですので、どうぞお気軽にご参加ください。2013 年 6 月講演会は 6 月 15(土)日を予定しております。

V. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

1. 2012 年度年会費について

いつも本研究会の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

毎年 4 月のニュースレターをお送りする際に振込票を同封して振込をお願いしていましたが、手違いにより前号に同封できませんでした。皆様にはご不便をおかけして、大変申し訳ありませんでした。今回振込用紙をお送りしますので、年会費 2000 円の納入をお願い致します。今年度は運営委員選挙を実施する年度であり、12 月末までの会費納入にご協力ください。

2. 2011 年度、2012 年度の会費をまだ納めていない方は、合わせてお振込をお願い致します。

研究会は会員の皆様からお振込頂く年会費（2 千円）により運営されています。納入年度は封筒の宛名の右下に会員番号とともに記載されています。また、事務整理の都合上、振込用紙に会員番号もご記入をお願いします。振込先は一番下に記載してあります。

3. 国内外に転居された方もいらっしゃるかと思います。国際看護研究会では経費節減のため、NEWSLETTER の送付にはメール便を利用しておりますが、最近転居先不明で戻ってくる場合が多くなっています。海外にも NEWSLETTER をお送りしています。

転居された方は研究会事務局(下記 e-mail あて)に新住所をご連絡下さい。

4. NEWSLETTER の「海外情報」に掲載する記事を募集しております。会員の皆様の活動報告、活動国の様子、医療事情、あるいは旅行記など海外に関する情報をお待ちしております。研究会事務局(下記 e-mail あて)にお申し出ください。

5. 会員の皆様からのご意見を反映して研究会の活動の更なる改善を図りたいと思います。講演会のテーマ、NEWSLETTER についてなど、本研究会へのご意見をお聞かせ下さい(下記 e-mail あて)。

6. 第 14 回学術集会抄録の残部があります。ご希望の方はその旨明記の上、抄録代として

500 円, 郵送代として 80 円の合計 580 円分の切手(80 円までの小額切手でお願いします)
と返送先を書いた A4 サイズ用の返信用封筒を事務局までお送りください。

※個人名で書かれた原稿内容は研究会の意見を反映するものではありません。また、ニュースレターの記事に関して無断転載を禁じます。皆様のご理解をお願いいたします。

JSIN Newsletter